

第7 じん臓機能障害

第7
じん臓機能

平成30年4月 じん臓機能障害の身体障害者認定基準が改定されました。

第7 じん臓機能障害

1 障害程度等級表

等級	じん臓機能障害
1級	じん臓の機能の障害により自己の身の辺の日常生活活動が極度に制限されるもの
2級	
3級	じん臓の機能の障害により家庭内での日常生活活動が著しく制限されるもの
4級	じん臓の機能の障害により社会での日常生活活動が著しく制限されるもの

○（障害程度の認定指標）

市認定要綱第1条による認定指標（認定基準）

級	① 血清クレアチニン濃度 ② 内因性クレアチンクリアランス値 ③ eGFR（推算糸球体濾過量）	活動能力の程度 じん不全に基づく臨床症状
1	①8.0mg/dl 以上 ②10ml/分未満	①自己の身の辺の活動が著しく制限される ②血液浄化を目的とした治療を要する。若しくは極めて近い将来に必要となる
3	①5.0mg/dl 以上 8.0mg/dl 未満 ②10ml/分以上 20ml/分未満 ③10ml/分/1.73 m ² 未満	①家庭内の極めて温和な日常生活活動には支障ないがそれ以上の活動は著しく制限される ②じん不全に基づく臨床症状のうち、いずれか2以上の所見がある。
4	①3.0mg/dl 以上 5.0mg/dl 未満 ②20ml/分以上 30ml/分未満 ③10以上 20ml/分/1.73 m ² 未満	①家庭内での普通の日常生活活動若しくは社会での極めて温和な日常生活活動には支障ないが、それ以上の活動は著しく制限される ②じん不全に基づく臨床症状のうち、いずれか2以上の所見がある。

※【じん不全に基づく臨床症状】

- | | | |
|-----------|--------------------|---------------------|
| a 末梢神経症 | d 精神異常 | g 代謝性アシドーシス |
| b 消化器症状 | e X線写真所見における骨異常栄養症 | h 重篤な高血圧症 |
| c 水分電解質異常 | f じん性貧血 | i じん疾患に直接関連するその他の症状 |

※【その他の留意事項】

じん臓移植を行ったものは、抗免疫療法の継続を要する期間は、これを実施しないと再びじん臓機能の廃絶の危険性があるため、抗免疫療法を実施しないと仮定した状態を想定し、1級として認定することが適当である。

市認定要綱別表第4による認定指標

(注) 市認定要綱別表第4による認定指標に基づき認定する場合は、血清クレアチニン濃度が3.0mg/dl以上であることが要件となる。内因性クレアチンクリアランス値のみ実施したものは30ml/分未満も要件を満たしているものとする。また血清クレアチニン濃度に替えてeGFR(推算糸球体濾過量)値で3級又は4級相当を適用した読み替えは可能。

項 目	得 点
1 じん不全に起因する臨床症状 (1)体液貯留 (4)循環器症状 (7)視力障害 (2)体液異常 (5)神経症状 (8)栄養障害 (3)消化器症状 (6)血液異常	3項目以上 30点 2項目 20点 1項目 10点
2 じん臓機能 (どちらか一つの検査結果が必要です) ・血清クレアチニン濃度 ・内因性クレアチンクリアランス値	8.0mg/dl以上 30点 5.0mg/dl以上8.0mg/dl未満 20点 3.0mg/dl以上5.0mg/dl未満 10点 10ml/分未満 30点 10ml/分以上20ml/分未満 20点 20ml/分以上30ml/分未満 10点
3 日常生活障害程度 (1)尿毒症状のために起床できないもの(エ) (2)同じく日常生活が著しく制限されるもの(ウ) (3)同じく通勤、通学あるいは家庭内労働が困難なもの(イ) ※(ア)は非該当	(1)該当 30点 (2)該当 20点 (3)該当 10点
4 定期的に人工透析を実施	10点
5 10歳未満及び70歳以上	10点

等級	得点の合計
1級	60点以上
3級	50点
4級	40点

2 相模原市認定基準（じん臓機能障害抜粋）

第2 個別事項

じん臓機能障害

【市認定要綱第1条に基づく認定基準】

- (1) 等級表1級に該当する障害は、じん臓機能検査において、内因性クレアチニンクリアランス値が10ml/分未満、又は血清クレアチニン濃度が8.0mg/dl以上であって、かつ、自己の身の日常生活活動が著しく制限されるか、又は血清浄化を目的とした治療を必要とするもの若しくは極めて近い将来に治療が必要となるものをいう。
- (2) 等級表3級に該当する障害は、じん臓機能検査において、内因性クレアチニンクリアランス値が10ml/分以上、20ml/分未満、又は血清クレアチニン濃度が5.0mg/dl以上、8.0mg/dl未満であって、かつ、家庭内での極めて温和な日常生活活動には支障はないが、それ以上の活動は著しく制限されるか、又は次のいずれか2つ以上の所見があるものをいう。
- a じん不全に基づく末梢神経症
 - b じん不全に基づく消化器症状
 - c 水分電解質異常
 - d じん不全に基づく精神異常
 - e エックス線写真所見における骨異栄養症
 - f じん性貧血
 - g 代謝性アシドーシス
 - h 重篤な高血圧症
 - i じん疾患に直接関連するその他の症状
- (3) 等級表4級に該当する障害は、じん臓機能検査において、内因性クレアチニンクリアランス値が20ml/分以上、30ml/分未満、又は血清クレアチニン濃度が3.0mg/dl以上、5.0mg/dl未満であって、かつ、家庭内での普通の日常生活活動若しくは社会での極めて温和な日常生活活動には支障はないが、それ以上の活動は著しく制限されるか、又は(2)のaからiまでのうちいずれか2つ以上の所見のあるものをいう。
- (4) じん移植術を行った者については、抗免疫療法を要しなくなるまでは、障害の除去（軽減）状態が固定したわけではないので、抗免疫療法を必要とする期間中は、当該療法を実施しないと仮定した場合の状態と判定するものである。
- (注1) eGFR(推算糸球体濾過量)が記載されていれば、血清クレアチニン濃度の異常に替えて、eGFR(単位はml/分/1.73m²)が10以上20未満のときは4級相当の異常、10未満のときは3級相当の異常と取り扱うことも可能とする。
- (注2) 慢性透析療法を実施している者の障害の判定は、当該療法の実施前の状態で判定するものである。

【市認定要綱別表第4に基づく認定基準】

要綱第1条に定めるところにより審査して得られた級別が、身体障害者福祉法施行規則別表第5号（身体障害者程度等級表）に定めるところと著しく適合性を欠くと認められる場合には、第1条の定めにかかわらず、*別表4により認定することができるものとする。*市認定要綱別表第4による認定指標に基づき認定する場合は、血清クレアチニン濃度が3 mg/dl以上であることが要件となる。内因性クレアチンクリアランス値のみ実施したものでは30ml/分未満も要件を満たしているものとする。また血清クレアチニン濃度に替えてeGFR（推算糸球体濾過量）値で3級又は4級相当を適用した読み替えは可能。

*別表4

次の1から5までの指標により得点を算定し、その得点の合計が60点以上の場合にはじん臓機能障害1級と認定し、同じく50点以上60点未満の場合は3級と、40点以上50点未満の場合は4級と認定する。

1 じん不全に起因する臨床症状

- (1) 体液貯留（全身性浮腫、肺水腫、胸水、腹水）
- (2) 体液異常（管理不能の電解質・酸塩基平衡異常）
- (3) 消化器症状（悪心、嘔吐、食思不振、下痢）
- (4) 循環器症状（重篤な高血圧、心不全、心包炎、著しい全身性血管障害）
- (5) 神経症状（中枢・末梢神経障害、精神障害）
- (6) 血液異常（E p o抵抗性又は禁忌の高度貧血、出血傾向）
- (7) 視力障害（尿毒症性網膜症、糖尿病性網膜症）
- (8) 栄養障害（低アルブミン血症）

これら(1)～(8)項目のうち3項目以上に該当する場合は高度30点、2項目に該当する場合は中等度20点、1項目に該当する場合は軽度10点とする。

2 じん臓機能

血清クレアチニン濃度が8 mg/dl以上の場合は30点、5 mg/dl以上8 mg/dl未満の場合を20点、3 mg/dl以上5 mg/dl未満の場合を10点とする。

また、内因性クレアチンクリアランス値が10ml/分未満の場合を30点、10ml/分以上20ml/分未満の場合を20点、20ml/分以上30 ml/分未満の場合を10点とする。

3 日常生活制限程度

尿毒症状のために起床できないものを高度30点、尿毒症状のために日常生活が著しく制限されるものを中等度20点、尿毒症状のために通勤、通学あるいは家庭内労働が困難となった場合を軽度10点とする。

4 透析例に対する加算

すでに定期的に人工透析を実施している場合は10点を加算する。

5 年齢による加算

10歳未満及び70歳以上の場合は10点を加算する。

3 相模原市認定要領（じん臓機能障害抜粋）

じん臓機能障害

1 診断書の作成について

身体障害者診断書においては、疾患等により永続的にじん臓機能の著しい低下のある状態について、その障害程度を認定するために必要な事項を記載する。併せて障害程度の認定に関する意見を付す。

(1) 「総括表」について

ア 「障害名」について

「じん臓機能障害」と記載する。

イ 「原因となった疾病・外傷名」について

じん臓機能障害をきたした原因疾患名について、できる限り正確な名称を記載する。例えば単に「慢性腎炎」という記載にとどめることなく、「慢性糸球体腎炎」等のように種類の明らかなものは具体的に記載し、不明なときは疑わしい疾患名を記載する。

傷病発生年月日は初診日でもよく、それが不明な場合は推定年月を記載する。

ウ 「参考となる経過・現症」について

傷病の発生から現状に至る経過及び現症について障害認定のうえで参考となる事項を詳細に記載する。

現症については、別様式診断書「じん臓の機能障害の状況及び所見」の所見欄の内容はすべて具体的に記載することが必要である。

エ 「総合所見」について

経過及び現症からみて障害認定に必要な事項、特にじん臓機能、臨床症状、日常生活の制限の状態について明記し、併せて将来再認定の要否、時期等を必ず記載する。

(2) 「じん臓の機能障害の状況及び所見」について

ア 「1 じん臓機能」について

障害程度の認定の指標には、内因性クレアチンクリアランス値及び血清クレアチニン濃度が用いられるが、その他の項目についても必ず記載する。

なお、慢性透析療法を実施している者については、当該療法実施直前の検査値を記入する。

イ 「3 臨床症状」について

項目のすべてについて症状の有無を記し、有の場合にはそれを裏付ける所見を必ず記述する。

ウ 「4 現在までの治療内容」について

透析療法実施の要否、有無は、障害認定の重要な指標となるので、その経過、内容を明記する。また、じん移植術を行った者については、抗免疫療法の有無を記述する。

エ 「5 日常生活制限による分類」について

日常生活制限程度(ア～エ)は、診断書を発行する対象者の症状であって、諸検査値や臨床症状とともに障害程度を判定する際の重要な参考となるものであるので、該当項目を慎重に選ぶ。

日常生活制限程度と等級の関係は、概ね次のとおりである。

ア…非該当

イ…4級相当

ウ…3級相当

エ…1級相当

2 障害程度の認定について

- (1) じん臓機能障害の認定は、じん臓機能を基本とし、日常生活の制限の程度、又はじん臓不全に基づく臨床症状、治療の状況によって行うものである。
- (2) じん臓機能のうち、内因性クレアチンクリアランス値あるいは血清クレアチニン濃度のいずれかが認定基準に該当すれば認定できる。
また、eGFR(推算糸球体濾過量)が記載されていれば、血清クレアチニン濃度の異常に替えて、eGFR(単位はml/分/1.73m²)が10以上20未満のときは4級相当の異常、10未満のときは3級相当の異常と取り扱うことも可能とする
- (3) 慢性透析療法を実施している者の障害程度の認定は、透析療法実施直前の状態で行うもので、諸検査値等がそのような状態で得られたものかどうかを確認すること。
- (4) じん臓移植術を行った者の障害程度の認定は抗免疫療法を実施しないと仮定した場合の状態で行うもので、諸検査値等がそのような状態で得られたものかどうかを確認すること。
- (5) じん臓機能検査、臨床症状と日常生活の制限の程度との間に極端な不均衡が認められる場合には、慎重な取扱いをして認定する必要がある。

4 疑義解釈（じん臓機能障害抜粋）

質 疑	回 答
<p>[じん臓機能障害]</p> <p>1. 慢性透析療法実施前の医療機関から転院した後に透析療法を開始した場合等で、手帳申請時の診断書に「透析療法実施前のクレアチニン濃度等は不明」と記載されている場合は、どのように等級判定するのか。</p> <p>2. 血清クレアチニン濃度に着目してじん臓機能を判定できるのは、主として慢性腎不全によるものであり、糖尿病性じん臓の場合は、血清クレアチニン濃度が8mg/dl未満であっても自己の身の日常生活が極度に制限される場合があるが、この場合の等級判定はどのように取り扱うのか。</p> <p>3. すでにじん臓移植手術を受け、現在抗免疫療法を継続している者が、更生医療の適用の目的から新規にじん臓機能障害として手帳の申請をした場合、申請時点での抗免疫療法の実施状況をもって認定してよいか。</p> <p>4. じん臓機能障害で認定を受けていたものが、じん臓移植によって日常生活活動の制限が大幅に改善された場合、手帳の返還あるいは再認定等が必要となるのか。</p>	<p>すでに透析療法が実施されている者の場合は、透析療法開始直前の検査所見によることとなり、転院した者であってもこれらの検査所見は保存されているはずであり、確認することが必要である。</p> <p>なお、やむを得ず透析療法開始前の検査所見が得られない事情のある場合は、次回透析日の透析実施直前における検査所見等を用いることが適当である。</p> <p>糖尿病性じん臓等、じん臓機能障害以外の要因によって活動能力が制限されている場合であっても、認定基準のとおり、血清クレアチニン濃度が8mg/dlを超えるもの又は内因性クレアチニンクリアランス値が10ml/分未満のものでなければ1級として認定することは適当ではない。</p> <p>しかし、相模原市身体障害者障害程度認定に関する要綱第1条の定めるところにより審査して得られた級別が身体障害者福祉法施行規則別表第5号に定めるところと著しく適合性を欠くと認められる場合は、この限りでない。（市認定要綱別表第4を参照のこと）</p> <p>じん臓移植を行ったものは、抗免疫療法の継続を要する期間は、これを実施しないと再びじん臓機能の廃絶の危険性があるため、抗免疫療法を実施しないと仮定した状態を想定し、1級として認定することが適当である。</p> <p>移植後の抗免疫療法を継続実施している間は1級として認定することが規定されており、手帳の返還や等級を下げるための再認定は要しないものと考えられる。</p> <p>ただし、抗免疫療法を要しなくなった後、改めて認定基準に該当する等級で再認定することは考えられる。</p>

5 診断書様式

身体障害者診断書・意見書

総括表

(じん臓機能障害用)

氏 名	年 月 日生 () 歳	男 ・ 女
住 所		
① 障害名 じん臓機能障害		
② 原因となった 疾病・外傷名		交通、労災、その他の事故、戦傷、戦災 自然災害、疾病、先天性、その他 ()
③ 疾病・外傷発生年月日 年 月 日 ・ 場所		
④ 参考となる経過・現症 (エックス線写真及び検査所見を含みます。)		
障害固定又は障害確定 (推定) 年 月 日		
⑤ 総合所見		
【 将来再認定 要 (軽減化・重度化) ・ 不要 】 (再認定時期 年 月)		
⑥ その他参考となる合併症状		
上記のとおり診断します。併せて以下の意見を付します。		
年 月 日		
病院又は診療所の名称		
所 在 地		
電 話 番 号		
診療担当科名		科 15 条指定医師氏名
身体障害者福祉法第 15 条第 3 項の意見【障害程度等級についても参考意見を記入】		
障害の程度は、身体障害者福祉法別表に掲げる障害に		
・ 該当する (級相当)		
・ 該当しない		
備考 1 「②原因となった疾病・外傷名」欄には、原因となった基礎疾患名 (慢性糸球体じん炎、糖尿病性じん症等) を記入してください。		
2 「⑤総合所見」に、相模原市身体障害者障害程度認定に関する要綱別表第 4 に基づく診断が適当と判断する場合は、その旨を理由とともに記入してください。		
3 障害区分や等級決定のため、相模原市社会福祉審議会審査部会からお問合せする場合があります。		

じん臓の機能障害の状況及び所見

(該当するものを○で囲んでください。)

1 じん臓機能 (慢性透析療法を実施している場合は透析療法開始直前の検査所見を記入してください。)

- ア 血清クレアチニン濃度 (mg/dl)
- イ 内因性クレアチンクリアランス値 (ml/分)
- ウ eGFR(推算糸球体濾過量) (ml/分/1.73 m²)

2 臨床症状 (該当する項目が有の場合は、それを裏付ける所見を右の [] 内で○で囲み、数値を記入してください。)

(水分電解質異常について)

(1) 体液貯留による症状 (有 ・ 無) [全身性浮腫、肺水腫、胸水、腹水]

(2) 体液異常の症状 (有 ・ 無)

管理不能な電解質異常
 Na mEq/l、K mEq/l
 Ca mg/dl、P mg/dl
 酸塩基平衡異常(代謝性アシドーシス)
 HCO³ mEq/l

(3) じん臓不全に基づく消化器症状 (有 ・ 無) [悪心、嘔吐、食思不振、下痢]

(4) 循環器症状 (有 ・ 無)

重篤な高血圧 / mmHg
 心不全、心包炎、著しい全身性血管障害

(5) じん臓不全に基づく神経症状 (有 ・ 無) [中枢・末梢神経障害、精神障害]

(6) 血液異常症状 (有 ・ 無)

じん臓性貧血 (Epo 抵抗性又は禁忌の重症貧血)
 Hb g/dl、Ht %
 赤血球数 × 10⁴/mm³
 出血傾向

(じん臓不全に直接関連するその他の症状)

(7) 視力障害 (有 ・ 無) [尿毒症性網膜症、糖尿病性網膜症]

(8) 栄養障害症状 (有 ・ 無) [血清アルブミン値 g/dl]

3 現在までの治療内容

慢性透析療法の実施 (有 ・ 無) [回数 /週、 期間]

4 日常生活障害度

- ア 日常生活に支障がないもの
- イ 通勤、通学あるいは家庭内労働が困難となったもの
- ウ 日常生活が著しく制限されるもの
- エ 起床できないもの

相模原市身体障害者障害程度認定に関する要綱別表第4に基づく診断が適当と判断する場合は、下記の事項を記入してください。

血清クレアチニン濃度又は内因性クレアチンクリアランス値	点
2の臨床症状の該当数 (個)	点
慢性透析療法の実施	点
日常生活障害度	点
年齢 (10歳未満又は70歳以上)	点
合 計	点